

北御牧村誌 歴史編Ⅰ 目次

口 絵

発行のことば

監修のことば

例 言

題字 北御牧村長 小山 治

北御牧村誌刊行会長 小山 治

監修者 黒坂 周平

第一章 原 始

第二節 旧石器時代 …………… 3

一 旧石器時代の人々のくらし…………… 3

二 旧石器時代の北御牧村…………… 6

第二節 縄文時代 …………… 7

一 縄文時代の特色と時代区分…………… 7

二 縄文時代の幕開け…………… 9

三 平底土器の普及と繊維・無繊維土器の発達…………… 12

四 極盛期の中期文化…………… 14

五 爛熟期の後期文化…………… 19

六 縄文時代の解体と弥生文化の萌芽…………… 21

七 村の縄文時代の遺跡…………… 23

1 遺跡の立地と分布…………… 23

2 千曲川水系の遺跡…………… 23

3 鹿曲川水系の遺跡…………… 28

4 八重原台地の遺跡…………… 30

5 御牧原台地の遺跡…………… 35

第三節 弥生時代 …………… 37

一 弥生時代のあらまし…………… 37

二 北御牧村の弥生時代の遺物…………… 39

三 弥生時代の北御牧村…………… 40

第二章 古代

第一節 古墳時代……………43

一 古墳時代のあらまし……………43

二 北御牧村の古墳……………45

三 古墳時代の北御牧村……………45

第二節 奈良・平安時代の人々のくらし……………47

一 くらしと住まい……………47

二 生活の道具……………51

第三節 北御牧村の奈良・平安時代遺跡……………53

一 遺跡の種類と分布……………53

二 生活遺跡の広がり……………53

三 生産遺跡の分布……………59

第四節 古代における地方のようす……………71

一 大化改新前後の地方のようす……………71

1 国土の統一と科野……………71

2 中国の史書にみられる「倭」(国)……………72

3 大化以前の地方のようす……………73

4 大化改新と地方の政治……………77

5 律令国家の完成へ……………80

6 農民のくらしと負担……………85

7 律令政治の衰退……………90

二 「倭名抄」の中の茂理郷……………92

第五節 古代の交通路……………98

一 古東山道と佐久……………98

二 信濃の延喜の官道……………104

第六節 古代の牧……………108

一 望月牧のあらまし……………108

二 古代「牧」の成立……………110

1 「延喜式」以前の牧……………110

2 律令制による「牧」の成立……………112

三 古代「牧」の展開と望月牧……………114

四 貢馬の牽進と望月牧……………124

五 望月牧の牧域遺構……………132

第三章 中世

第一節 中世のはじまり……………147

一	古い居館はどこか	147
1	古い郷村と新しい村落	147
2	用水からみた鹿曲谷の中の新旧	149
3	古い居館はどこか	153
二	望月氏と保元の乱	156
1	保元の乱	156
2	望月氏の参加	161
第二節	鎌倉時代	163
一	望月氏と木曾義仲	163
1	木曾義仲の挙兵	163
2	横田川原の戦と望月氏	165
3	頼朝との不和	168
4	義仲京へ上る	170
5	義仲の栄光とさ折	172
二	鎌倉幕府御家人望月氏	176
1	望月氏、幕府の御家人に	176
2	望月氏の活躍	178
三	神平六重直	188
1	賀沢の水田六反	188
2	みけの条今井村二丁一反の地頭職	188
3	神氏	189
四	望月牧の変化	192
一	細りゆく貢馬	192
2	押領者(横取りした者)はだれか	193
五	いきづまる社会	194
第三節	南北朝時代	196
一	両羽神社の石龕と銘	196
1	両羽神社の石龕	196
2	石龕の銘と元弘の変	199
3	鎌倉幕府の滅亡	201
二	建武の新政とひめやさの申請	202
1	天皇の親裁と破たん	202
2	重直女子ひめやさの申請	203
三	攻撃された望月城	204
1	中先代の乱	204
2	攻撃された望月城	206
四	神氏女ひめやさと白田氏	209
1	賀沢の田六反の再申請	209
2	望月氏所領がなぜ「白田文書」に	211
五	観応の擾乱と望月氏	212
1	観応の擾乱と望月氏	212
2	武蔵野台戦	214
六	甲賀望月氏のおこり	216
1	甲賀望月氏	216

2	甲賀望月氏のおこり	217
3	御前落居記録	218
4	「正平六年御下文」の意味	219
七	八幡木の宝篋印塔銘と五輪塔	220
八	推定 望月氏奉納の古刀	222
第四節 室町時代 ……………227		
一 大塔合戦……………227		
1	合戦の原因	227
2	守護小笠原長秀の敗北	228
3	望月氏参戦の評価	229
二 貢馬の終わり……………231		
1	五、六疋から一疋に	231
2	貢馬の終わり	232
三 望月光盛・光重の花会頭役……………234		
1	望月光盛・光重の頭役	234
2	布下氏	236
3	花会の頭役	239
四 両羽神社と経筒……………241		
1	両羽神社	241
2	文安の経筒	243
五 望月氏所領の拡大……………244		
1	八幡宮の建立と「東岫盛暎」	244
第五節 武田氏領国の時代 ……………249		
一 武田氏の来攻……………249		
1	武田氏の動き	249
2	望月一族、武田氏に滅ぼされる	251
3	望月昌頼の流浪	252
4	望月信雅が惣跡に	253
5	武田氏流の望月氏	254
6	武田領国の統治	255
二 戦国時代の北御牧……………257		
1	望月氏の家臣団	257
2	羽毛山外山城と依田氏	260
3	大宮大明神の神領と貫高	263
4	村高	267
第六節 領主望月氏の哀歌 ……………270		
一 激変の一年……………270		
二 近世の序幕……………272		
第七節 城館跡 ……………273		
1	本下之城「城」居館跡	273

2 布下氏居館跡……………273

3 外山城……………273

4 望月城跡と城光院館跡……………273

5 政所城跡……………276

6 一丁田城……………277

7 鍋蓋曲輪……………277

8 布引城跡……………278

第八節 地名が語る歴史……………280

1 市坂と島川原……………280

2 京免……………281

3 とや原と鷹ノ巣……………282

4 へを坂……………283

第四章 近世

第一節 小諸藩の支配と村々……………287

一 江戸幕府の成立と幕藩体制の確立……………287

二 小諸藩歴代の藩主……………288

三 小諸藩の支配と政策……………295

四 小諸藩と北御牧の村々……………303

五 村政の運営……………314

第二節 人口の変遷と村人のあり方……………319

一 人口の変遷……………319

1 各村の人口とその変遷……………319

2 村人の人生（下之城村の場合）……………323

3 「入人出人帳」から……………326

4 本百姓と抱……………329

二 村人のあり方……………337

1 村人と村……………337

2 村人の生活……………340

三 差別された人々……………352

第三節 産業と貢租・課役……………362

一 農業……………362

1 検地と農民の土地所有……………362

2 八重原村の開発と農業事情……………368

3 農業経営……………372

二 その他の産業……………375

三 貢租・課役……………389

1 年貢……………389

2 諸役……………399

第四節 山林の利用と山論……………402

一	山林の利用	402
1	山林の利用と所有形態の歴史	402
2	領主所有の山林とその利用	402
3	村々の山林の利用	405
4	下草などを利用させる「御林山」の管理	405
二	山論	406
1	山論の発生	406
2	北御牧村に関連する山論の概要	407
3	八重原山山論	408
4	小県八か村と牛鹿(六)村の境界論争(八ヶ山山論)	410
5	水入山山論	411
6	御牧ヶ原山論	414
第五節	水の利用と開発	419
一	水の利用	419
1	北御牧の用水・堰	419
2	コラム―堰をめぐる	425
二	八重原用水の開削と八重原新田の開発	427
第六節	交通と助郷	437
一	街道と脇往還	437
二	村の道	442
三	助郷	451

第七節	災害と一揆・騒動	460
一	災害	460
1	風水害	460
2	浅間山の火山活動による災害	467
3	地震	473
4	飢饉	482
二	一揆・騒動	489
1	延宝の一揆(芦田騒動(川西騒動))	489
2	天明上信騒動	491
3	水戸浪士事件(天狗党の乱)	496
4	赤報隊事件	498
5	小諸騒動と川西騒動	500
第八節	寺社と信仰	503
一	寺院と堂庵	503
1	近世の寺院	503
2	村内の寺院	503
3	永学寺	505
4	観音寺	507
5	宗江寺	509
6	村域外にある関係寺院	512
7	堂庵	515

二 修 験	516
1 修験概要	516
2 村域の修験	518
三 神 社	519
1 近世の神社	519
2 村域の神社	521
3 主な神社	522
四 地藏信仰	530
1 地藏尊	530
2 村内の地藏さま	531
五 その他の信仰	533
第九節 文化と教育	536
一 寺子屋	536
二 美 術	539
三 文 芸	543
四 医 術	543

参考文献

歴史編Ⅰ 調査協力者・資料提供者

歴史編Ⅰ 関係者名簿

あとがき

編纂委員長 小林義介